

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成26年12月26日 (NO.42)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所



第2部 パネルディスカッション 「コミュニティ・スクールの導入」

パネラー 四柳千夏子氏 (講師)
平岡弘孝氏 (校長会会長)
山口 純 氏 (町P連会長)
岸田 睦 氏 (CS推進委員長)
笹川尚哉氏 (浦小教諭)

コーディネーター 久門好行(教育長)

パネルトーク・1

「CS導入に何を期待するか、学校、家庭、地域それぞれの立場から考える。」

平岡弘孝校長会会長



- リアリティな学習活動は、楽しく意欲的な姿や郷土愛を育む。
- 専門家から直接学ぶことにより、理解や技能が向上する。
- 様々な価値観をもつ大人との関わりで新たな見方や感性が育まれる。
- 地域の大人の真剣な姿が、人のために頑張ることの大切さや思いやりの心を育む。
- 生徒が参加する場が増えることにより、温かい人間関係が育まれる。

山口純町P連会長



- 学校を中心とした地域活動が展開され、大人も「学びの拠点」として学校を活用していける。また、特色ある学校づくりができる。
- 「教育」から「共育」へ。保護者と学校、地域はパートナーの関係を築くことにより、子どもたちの成長に関わっていく。
- 学校に任せきりになるのではなく、積極的に関わり、当事者として活動していく。保護者や地域住民が学校の応援団として支援する。

岸田睦 CS推進委員長



- 「自立と共生が出来る」「先生(恩師)や親(地域)に感謝の気持ちを持つ」「地域の一人として将来の夢を語る」子どもを期待する。
- 気持ちの中に故郷がある人は、重大な判断を迫られたとき大きな支えになる。上浦幌小学校の閉校事業でCSのイメージを感じた。
- 上浦幌地区でも通学(楽)合宿を実現し、悩みを共有し問題を解決する力が付いてきた。地域人材の活用も教育の幅を広げている。

笹川尚哉教諭



- これまでの「学校」「家庭」の二輪から、「地域」と「行政」を加えて四輪走行になると、悪路に強いより安定した仕組みができる。
- 理科実験や実習、校外学習に地域の人々のサポートが得られると、子どもたちの学習意欲が高まり学力も向上する。
- 小中合同サポート学習や「うらほろスタイル学習」の充実が見込める。
- 休み時間や放課後の時間に、地域の人たちと連携した学びが広がる。